

楠田 一夫

# 香散見草

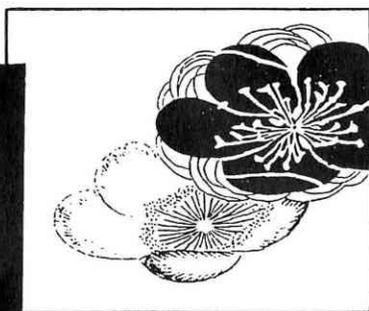
## 1周年に

おも  
う

香散見草も今ではすっかり大学に定着し、多くのファンを持つようになった。創刊以来ささやかではあるが雑誌作りの一端をお手伝いさせていただいたものとしてこの1周年記念号の発刊は何によりも嬉しく、心からお祝いを申し上げたい。香散見草は学生から教職員まで気軽に楽しく読めて、同時に図書館に関する新しい知識や情報を得ることが出来る雑誌であるがこうした大学図書館からの情報記事ばかりでなく、もっと読者の側からも積極的に企画や編集にアイデアを提供し、これまでにない新しい形の図書館報を提案してみてもいかがだろうか。そうすれば今よりもっと楽しい読者参加の雑誌になり図書館に対するイメージも利用の方法も変わってくるのではないかと考える。

例えば図書館を利用する人達同志の情報交換のコーナーや簡単な創作文の発表コーナーあるいは図書館利用のユニークなアイデアコーナーなどまだまだ他にも色々と考えられるが、こうした読者間や図書館と読者の間のコミュニケーションの場としても大いに活用することも意義あることと考える。1周年を機会に更に発展した香散見草を読者と共に考え創造する新しい図書館報を期待したい。

さて、昨年の秋、香散見草創刊号を知人の建築家谷川昭悦先生にお送りしたところさっそく先生から一通のお便りを戴いた。そこには香散見草について色々と書かれてあったが、中にとってもおもしろい文章をみつけたのでその一部をご紹介します。以下は原文のままです。(……加古川に「プルニエ」という洋菓子屋さんがあり割合おいしいケーキを売っているので時々買いに行きます、主人が梅林さんという人で仏語にしゃれて prune をとったのでしょうか、スペイン語なら cirvela、伊語なら susina、ポルトガル語では ameixa、独語では pflaume、トルコでは erik、ロシア語では silva、ギリシア語では damaikinon、アラビアでは qarasia、スワヒリ語になると tunda kama zambarau と段々分からなくなります。……) いかがでしょうか、他にご存じの国の言葉がありましたらお教え下さい。



去年5つ実をつけた我が家の梅の木も今年は一升近く収穫することが出来た。香散見草創刊号で我が家の小さな梅の木をご紹介したが、あれから1年。この5号で香散見草は創刊1周年を迎える。